

じょし 所有を表す助詞

ポイント

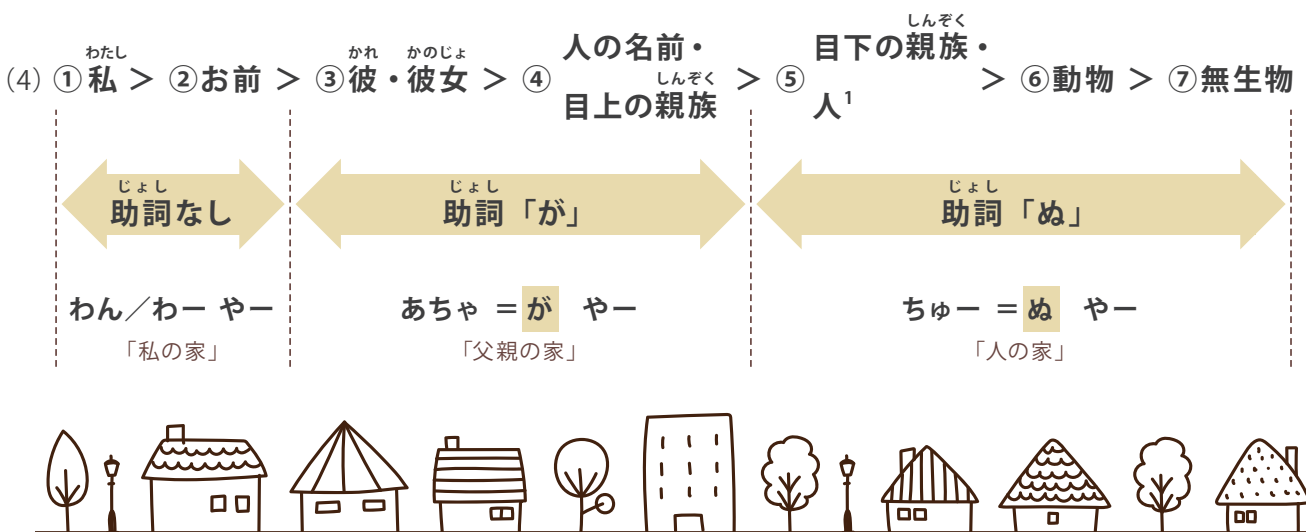
- 日本語の「～の（「私^{わたし}の本」など）」は、しまむにでは、
①「何も付け^{じょし}ない（助詞なし）」、②助詞「が^{じょし}」、③助詞「ぬ^{じょし}」のいずれかで表す。
- ①、②、③の表し方は、前の名詞の意味^{めいし}によって使い分ける。

日本語では「私^{わたし}の家」「父^{ちち}の家」「人^{ひと}の家」など、ものの持ち主などを表す時に「の」という助詞^{じょし}を使います。しまむにでは、日本語の「の^{たいおう}」に対応する言い方として3種類の言い方があります。

(1)では「家」の持ち主の「私^{わたし}」に何も助詞^{じょし}がついていません。(2)では「家」の持ち主の「父親^{ちち}」に、助詞「が^{じょし}」がついています。(3)では「家」の持ち主の「人^{ひと}」に、助詞「ぬ^{じょし}」がついています。

| | | |
|---|--|--|
| <p>(1) わん／わー やー</p> <p>私^{わたし} 家</p> <p>「私^{わたし}の家」</p> | <p>(2) あちゃ = が やー</p> <p>父親^{ちち} の 家</p> <p>「父親^{ちち}の家」</p> | <p>(3) ちゅー = ぬ やー</p> <p>人^{ひと} の 家</p> <p>「人^{ひと}の家」</p> |
|---|--|--|

この3つの表し方は、どのように使い分けられているのでしょうか？ この使い分けは、「主語と目的語」の回でも出てきた「有生性の階層^{ゆうせいせい かいそう}」という言語学の理論^{りろん}で説明^{しんめい}できます。「有生性の階層^{ゆうせいせい かいそう}」とは、簡単^{かんたん}にいうと「名詞^{めいし}を（自分に近い）生き物らしい順番^{じゅんばん}にならべたもの」で、しまむにでは、(4)のようになります。



1 「男」「女」などの抽象^{ちゆうしょうてき}的な名詞^{めいし}。

※ このテキストでは、他の言葉と区別^{きべつ}するために、助詞の前に「=」をつけています



所有(～の)を表す時に、

- ①私、②お前の名詞は、助詞を何もつけません。
③彼・彼女と④人の名前・目上の親族の名詞は、助詞「が」を付けます。
⑤目下の親族・人⑥動物⑦無生物は、助詞「ぬ」を付けます。

このように、しまむにで所有や所属などを表すときには、名詞の意味によって、助詞の有無や種類を使い分けているのです。

練習問題

以下の名詞を使って、①～⑥をしまむにに直してみましょう。

| | | | |
|-------------|----------|--------|----------|
| わん／わー (私) | うら (あなた) | みー (兄) | いんが (男) |
| くわー (子・子ども) | 'みゃー (猫) | ふい (声) | たろう (太郎) |

「'」は、小さい「っ」のように、のどをしめる音を表す

(1) 私の子ども ()

(2) 太郎の子ども ()

(3) 猫の子ども ()

(4) 男の声 ()

(5) 兄の声 ()

(6) あんたの声 ()